

山梨県北巨摩郡高根町

# 東久保遺跡

広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000.3

高根町教育委員会

峡北土地改良事務所

山梨県北巨摩郡高根町

# 東久保遺跡

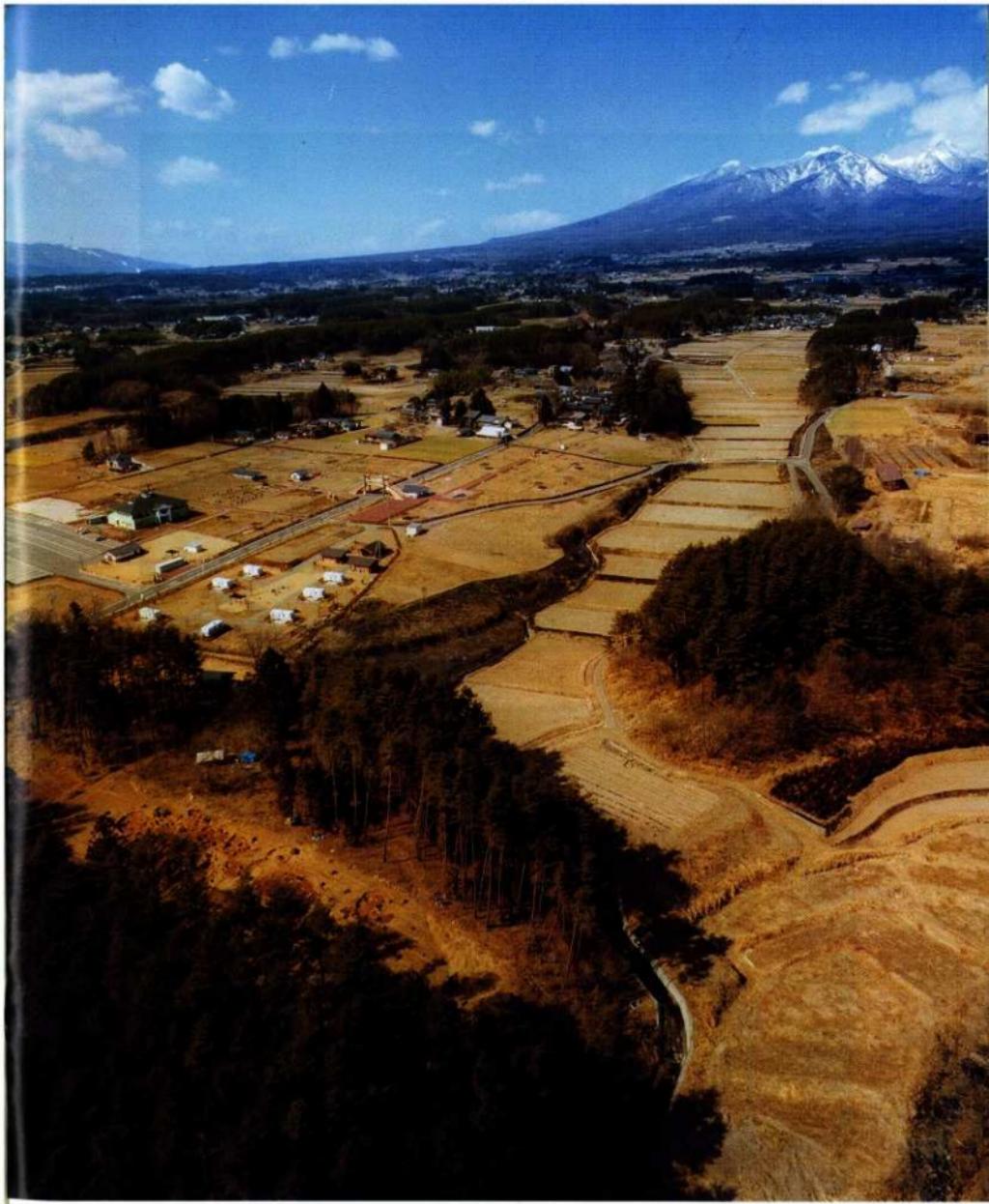
広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000.3

高根町教育委員会

峡北土地改良事務所



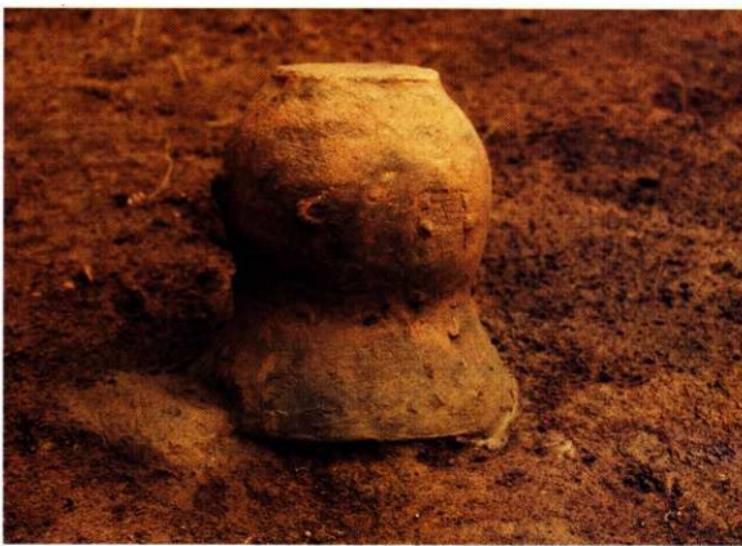


航空写真





▲第11号住居址出土土偶



▲第28号住居址出土土器



## 序

高根町は、山梨県の北西部に位置し長野県との県境ともなっている八ヶ岳南麓に広がる、青空と水と緑の高原の町です。

町内には、原始から古代・中世と続く遺跡が数多く発見されており、中でも町の中心部あたり、標高600mから800mの南部地域にかけては遺跡密集地域として分布図上でも、発掘調査によっても確認されております。

当遺跡を含む藏原地内は丘陵上は緩やかに南傾斜しておりますが、小河川は次第に発達し入り江状に奥深くまで切り込み、前述の丘陵との比高差は次第に高くなり、比較的水の少ないところとなっております。

昭和61年度に当教育委員会で行った分布調査によれば、藏原・小池地域内では9カ所の遺跡と一見少ないように感じますが、この付近一帯は山林部分が多いことがその要因であると思われます。

当遺跡はその中でも最大規模の範囲を持つ縄文時代中期の遺跡であり、この地域のひいては八ヶ岳南麓の歴史解明の一助となれば幸いです。

最後に、この度の発掘調査に御協力いただいた土地所有者をはじめとする関係者の皆様に深く感謝の意を表すとともに、今後の御協力を重ねてお願い申し上げます。

平成12年3月30日

高根町教育委員会

教育長 坂本基可



## 例　　言

1. 本書は山梨県北巨摩郡高根町戸原字東久保 936番地外に所在した東久保遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は広域営農団地農道整備事業に先立ち、山梨県峡北土地改良事務所との負担協定により高根町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査にあたった組織は次のとおりである。

調査主体　　高根町教育委員会

調査担当者　　高根町教育委員会社会教育係文化財担当　雨宮正樹

調査事務局　　高根町教育委員会事務局

4. 発掘調査によって得られた出土遺物・記録図面及び写真等は、高根町教育委員会で保管している。
5. 発掘調査及び本書作成にあたり、次の諸先生方・諸機関よりご指導・助言・協力をいただいた。記して感謝申し上げる次第である。（順不同・敬称略）  
小野正文、森原明廣、新津健、保坂康夫、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県埋蔵文化財センター、山梨県峡北土地改良事務所、北巨摩郡町村文化財担当者会

# 目 次

序 文

例 言

第Ⅰ章 調査状況	12
i 調査に至る経緯と経過	12
ii 周辺の地形	12
第1図 遺跡分布図	13
iii 周辺の地質	14
iv 遺跡の立地	14
v 周辺の遺跡	14
vi 調査方法	15
第Ⅱ章 調査の成果	15
i 遺構	15
ii 遺物	22
第Ⅲ章 小 括	22

# 図 版

図版 1 調査区全景	24
図版 2	25
図版 3	25
図版 4	26
図版 5	26
図版 6	27
図版 7	27
図版 8	28
図版 9	28
図版 10	29

図版11	29
図版12	30
図版13	30
図版14	31
図版15	31
図版16～18	32
図版19～21	33
図版22～24	34
図版25～27	35
図版28～30	36
図版31～33	37
図版34～36	38
図版37～39	39
報告書概要	40

# 第Ⅰ章 調査状況

## i 調査に至る経緯と経過

山梨県では農村振興政策の一環として農業基盤整備事業すなわち水田等の区画整理のほかに、農産物の集中化・効率的な集・出荷等を目的とした大型農道を駿北地域にいくつかのルートを建設している。

その一つとして国道141号(箕輪バイパス)沿線箕輪地内新田大林下から長坂町の長坂上條までをほぼ一直線に結ぶ農道が計画されている。この農道は平成11年度に、上記箕輪地内の新田大林下より大坪原を抜けて中藏原にいたる総延長約1kmが工事対象となるため、工事予定区域内の踏査を行った。これによれば、予定ルート内の地目のほとんどが、全線にわたって山林を占め、高根町教育委員会が実施した分布調査においても空白地帯であったことから、平成11年2月から3月にかけて試掘調査を実施した。

予定ルート上には南北に舌状に伸びる台地が3本あり、その間を南流する須玉川の支流である西川などにより幅が広く深い渓谷となっており、古くから水田として利用され、ほ場整備事業による水田の区画整備は終了している。このことから、試掘調査は水田部分を除外して、山林部のみとし、各尾根上に等間隔で試掘坑を掘り、遺構および遺物の精査を行ったが、新田大林下および大坪原地内からは確認できなかった。

遺構および遺物の確認できたのは、藏原地内のみであり、その広がりは予定T区内全域に広がる大規模なものであり、字名より東久保遺跡と命名した。

このことにより、山梨県学術文化財課・町産業観光課・当教育委員会で協議を行い調査は高根町教育委員会により平成11年5月から平成12年3月まで発掘調査を行った。

## ii 周辺の地形

高根町は、山梨県の北西部に県境としてそびえている八ヶ岳の南麓に広がる高原の町である。この連山は、日本列島を東西に二分する大地溝帯上(フォッサマグナ)に噴火した火山性の山であり、噴出物の特性(安山岩)のため裾野は比較的なだらかな地形(台地状をていする)であるが、町内東部は飯盛山火山群に属するため、この周辺はやや急峻である。

八ヶ岳からつづくこの台地は、国道141号の畠崎から小諸へ抜ける途中の弘法坂付近で合流する大門川と川俣川によって2つに区分することができ、北部域は標高約1,000m以上の亜高山帯に属し、南部域は標高約600mから約900mの範囲で高根町の主要部を占め、基幹作物は水稻等を主としている。

町の東は八ヶ岳の主峰赤岳を水源とし南流する川俣川・大門川(須玉川)によって激しく侵食された比高差約100mを測る垂直に切り立った崖が20数km南北につづき、北は前

●東久保遺跡

第1図 遺跡分布図

1:25,000

0 300 600 900 1200

述の南北に折り重なるように列になった八ヶ岳連峰によって隔絶された地域となっている。唯一開けた西側も隣町である長坂町及び小淵沢町の西側を南流する釜無川(富士川)によって隔絶されているが、この両河川に挟まれた台地は、比較的緩やかな南傾斜であり、前述の両大河川に合流している。

### iii 周辺の地質

八ヶ岳は、本州を中央で二分する大地溝帯=糸魚川静岡構造線上に噴火した火山群で、その生成時期は地質年代で第三紀末から第四紀の洪積世前期といわれ、形成している熔岩はいわゆる輝石安山岩類で標高1,000m以上に分布し、それ以下の広大な山麓の斜面は、熔岩の粉碎物や、噴火による堆積物からなる火山質腐植土の黒褐色をした表土が覆っている。

標準的な土層堆積状態は上から、黒色土=耕作土(20~40cm)、ローム層(3~4m)、御岳山を起源とされる細粒軽石層いわゆる鹿沼土(40~20cm)、白色系粘土層(10~20cm)、暗赤褐色礫粘土層(八ヶ岳火碎泥流)となる。

### iv 遺跡の立地

当遺跡は、国道141号(佐久甲州街道)の須玉町若神子新町で分岐する県道須玉八ヶ岳公園線を八ヶ岳方面に左折し西川沿いに北上し、途中通称竜の口を右折し雲雀沢沿いに北上し下藏原の家並みを通り過ぎたあたり一面は疏菜畑、桑畠として利用されていた。

分布調査によれば住宅地を含む畠一帯には耕作に伴い出土した遺物が散見できることから、畠地として耕作されているところ全城が遺跡台帳に登録されている。しかし、この状況が台地全体に広がりを持つものは不明であり、畑=桑畠として耕作されていたことにより、その保存状況は試掘調査によってのみでしか判断できない。

のことにより遺跡が所在する台地は、比較的東西方向は広く南北方向に緩やかな傾斜を示している。東側は西川により深く侵食され、比高差30mあまりの断崖となつておらず、西側は古くから水田として利用されていた沢地であるが、近年のは場整備事業により沢一杯に区画された水田となっている。

### v 周辺の遺跡

八ヶ岳南麓の広大な裾野の中で標高600mから800mの地形は八ヶ岳山体としては最下層部の中に含まれ、山中で発達はじめた小河川及び沢が幾度かの合流を繰り返しながら中河川となり、台地にその流れを深く刻み、台地と沢との比高差は徐々に深いものになり、谷の部分は現在では水田として耕作され、構造改善事業の一環としてほ

場整備事業を行なっている。

当遺跡が立地するハケ岳南麓は、その豊かな人地と水等により先史時代から断続的にはあるが、多くの遺跡が存在している。本遺跡を含む主要な時期である縄文時代中期の遺跡を概観してみると(第1図)148は日影山遺跡、140は西原遺跡、89は西ノ原遺跡、146は下風呂遺跡、102は藤代A遺跡、104は藤代B遺跡、103は宮の前A B遺跡、106は西久保遺跡、107は後原遺跡、108は長崎A遺跡、110は長崎B遺跡、109は長崎・後原遺跡が所在する。

## vi 調査方法

試掘調査によれば蔵原地内の工事対称区域全域から遺物が確認されたことから、この全域を対象として発掘調査を行うこととした。

調査は重機によって表土を除去し、遺構の確認及び掘り下げは人力によって行った。調査区内に任意で10m四方のグリッドを設定した。尚、黒色土の堆積が厚いことから、調査区内に東西のサブトレーンチを2.5mピッチで遺構確認面まで掘り下げ、確認されたところから掘り広げ遺構の検出・確認を行った。

# 第Ⅱ章 調査の成果

## i 遺構

### 1、住居址

調査区内の東端の雲雀沢(西川)に近い部分からは遺構は検出されず、この縁辺部から西に10mほど離れた地点から遺構が検出されている。本遺跡内において、黒色土の堆積が非常に厚く、この黒色土中からも多量の遺物が出土している。このことから、遺構検出をスムーズに行うために幅50cmのトレーンチを南北に2.5mピッチで10本設定し、遺構検出にとめた。以下に検出された遺構について述べたい。

#### 第1号住居址

(位置) E-3 グリッドより検出

表土除去中より検出された石囲い炉である。炉の約半分は、調査区域外に延びるため全体は不明であるが、1辺約80cmを測るほぼ方形になると思われる。周辺の精査を行ったが、柱穴は確認されなかったことにより単独の屋外炉と思われる。

### 第2号住居址

(位置) D-4・5グリッドより検出

(形状・規模) 遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約5mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に大型の平石を用いた石囲い炉が設置され、出入り口と思われる付近に埋甕1基が存在した。

### 第3号住居址

(位置) C-5、D-5グリッドより検出

(形状・規模) 遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約5mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に大型の平石を用いた石囲い炉が設置されていた。

### 第4号住居址

(位置) C-5グリッドより検出

(形状・規模) 第3・7・8号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約5mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に大型の平石を用いた石囲い炉が設置されていた。

### 第5号住居址

(位置) C-4・C-5・D-4・D-5グリッドより検出

(形状・規模) 第3・6号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約5mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に大型の平石を用いた石囲い炉が設置されていた。この炉の北西角に小型の副炉が存在した。

### 第6号住居址

(位置) C-4グリッドより検出

(形状・規模) 第5号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約10cmを測り、平面プランは直径約4mの円形を示す。遺物の出土状況は非常に希薄であり、遺構内の精査を行ったが、炉は確認できなかった。

### 第7号住居址

(位置) C-5・6グリッドより検出

(形状・規模)第4・8・9・12号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは長軸南北方向が約8m、短軸東西方向が約6mの梢円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に河原石を平置した状況で石囲い炉が設置されていた。

#### 第8号住居址

(位置)C-5グリッドより検出

(形状・規模)第4・7号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約40cmを測り、平面プランは直径約3mの円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部よりやや北側に小規模ではあるが、平石を用いた石囲い炉が設置されていた。

#### 第9号住居址

(位置)C-6グリッドより検出

(形状・規模)第7・10・12号住居址重複して存在し、遺構確認面から床面と思われるまでの深さは約10cmを測り、平面プランは直径約6mの円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内の精査を行ったが、炉は確認されなかった。

#### 第10号住居址

(位置)C-6・C-7グリッドより検出

(形状・規模)第9・20号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約10cmを測り、平面プランは長軸東西方向が約5m、短軸南北方向が約4mの梢円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部に小規模ではあるが、平石を用いた石囲い炉が設置されていた。

#### 第11号住居址

(位置)B-4・C-4グリッドより検出

(形状・規模)本遺跡内で東端部より単独で検出された住居址で、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは長軸南北方向が約6m、短軸東西方向が約5mの梢円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央部に破壊された石囲い炉が検出された。住居址内中央部よりやや東により埋甕1基が検出された。

### 第12号住居址

(位置) B - 6 ・ C - 6 グリッドより検出

(形状・規模) 第9・12号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約15cmを測り、平面プランは直径約7mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

### 第13号住居址

(位置) B - 7 ・ C - 7 ・ B - 8 ・ C - 8 グリッドより検出

(形状・規模) 第24号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約40cmを測り、平面プランは長軸南北方向約7m、短軸東西方向約5mの楕円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

### 第14号住居址

(位置) B - 9 ・ C - 9 グリッドより検出

(形状・規模) 第25・26号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは直径約7mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に河原石を平置きした石囲い炉が検出された。調査中において、東側の壁が一直線に伸びる傾向が認められたため、精査を行ったところ中央よりやや南の位置より焼きしまった小土壙が検出されたことにより平安時代の住居址と切り合い関係を持つものと思われるが、遺物が伴出しないため不明である。規模としては、一辺約5m前後の隅丸方形であろう。

### 第15号住居址

(位置) C - 8 ・ C - 9 ・ D - 8 ・ D - 9 グリッドより検出

(形状・規模) 第16号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは長軸南北方向約7m、短軸東西方向約6mの楕円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

### 第16号住居址

(位置) D - 9 グリッドより検出

(形状・規模) 第27・28号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは直径約7mの円形を示す。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。

切り合い関係で第27号住居址により炉は確認されなかった。

#### 第17号住居址

(位置) B-8・C-8 グリッドより検出

(形状・規模) 第24・25・26号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約6mの不定円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であったものの、床面直上より土圧により押し潰された土器が2個体出土している。遺構内ほぼ中央より河原石と玉石を用いた小型の炉が検出された。

#### 第18号住居址

(位置) B-7・C-7 グリッドより検出

(形状・規模) 第13号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは直径約6mの不定円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

#### 第19号住居址

(位置) C-7 グリッドより検出

(形状・規模) 第20・21号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面と思われるまでの深さは約10cmを測り、平面プランは直径約8mの円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内の精査を行ったが、炉は確認されなかった。

#### 第20号住居址

(位置) C-7・D-7 グリッドより検出

(形状・規模) 第10・19・21号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約7mの不定円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

#### 第21号住居址

(位置) C-7・D-7 グリッドより検出

(形状・規模) 第19・20・22号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約6mの不定円形を示すと思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

### 第22号住居址

(位置) C-8 グリッドより検出

(形状・規模) 第21号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約6mの不定円形をついすると思われる。遺物の出土状況は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に河原石を平置きしその中央部に深鉢を設置した石窓い埋甕炉が検出された。

### 第23号住居址

(位置) C-7 グリッドより検出

(形状・規模) 第20号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約5cmを測り、平面プランは直径約4mの不定円形をついすると思われる。遺物の出土状況は少ない状況であった。遺構内を精査したが炉は検出されなかった。

### 第24号住居址

(位置) C-8 グリッドより検出

(形状・規模) 第13・17号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約10cmを測り、平面プランは直径約3mの不定円形をついすると思われる。遺物の出土状況は少ない状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石窓い炉が検出された。

### 第25号住居址

(位置) B-8・C-8・B-9・C-9 グリッドより検出

(形状・規模) 第17・26号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約30cmを測り、平面プランは直径約5mの不定円形をついすると思われる。住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に石窓い炉と思われる、焼土を伴う小土壙が検出された。

### 第26号住居址

(位置) B-9 グリッドより検出

(形状・規模) 第26号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは地区外に延び、炉の一部と思われる石の位置より、長軸南北方向約6m、短軸方向約5mを測る楕円形をついすると思われる。住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。

### 第27号住居址

(位置) D-9 グリッドより検出

(形状・規模)第16・28・29号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約5mを測る不定円形を示すと思われる。住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的ではあるが、拡散した状況であった。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

#### 第28号住居址

(位置)D-9・E-9グリッドより検出

(形状・規模)第16・27・29号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約40cmを測り、平面プランは直径約7mを測る不定円形を示すと思われる。遺物は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的に、集中した状況で出土している。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。出入口と思われる位置に一直線上に埋甕2基が検出されている。

#### 第29号住居址

(位置)D-8・E-8・D-9・E-9グリッドより検出

(形状・規模)第27・29・30号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約4mを測る不定円形を示すと思われる。遺物は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的に、集中した状況で出土している。遺構内中央よりやや北側に破壊された石囲い炉が検出された。

#### 第30号住居址

(位置)D-8・E-8・D-9・E-9グリッドより検出

(形状・規模)第27・28号住居址と重複して存在し、遺構確認面から床面までの深さは約20cmを測り、平面プランは直径約4mを測る不定円形を示すと思われる。遺物は住居内中心部より比較的高い位置から床面まで断続的に、集中した状況で出土している。遺構内中央よりやや北側に河原石を平置きし、その中心部に深鉢を設置した石囲い埋甕炉が検出された。

## 2、土 坑

調査区域内より50基以上の土坑が検出されている。複数の土坑及び住居址と切り合っているため正確な状況はつかめないが、現況が山林であり、住居址の検出時においても土層の乱れ等が確認されないことからほぼこの時期に限定されるものであろう。

#### 第1号土坑

第15・25号住居址と重複して存在し、長軸南北方向約1.5m、短軸方向約1m、深さ約0.8mを測り黒褐色土の覆土が充填されていた。底より0.2m上がった地点の遺構内

ほぼ中央部に敷き詰めるかのように深鉢の破片が出土している。

#### 第 号土坑

第22号住居址内に存在し、直径約1m、深さ約0.8mを測り円形をついする。底直上に押し潰されたかのような形状で深鉢ほぼ1個体分が出土している。

### ii 遺 物

#### 1. 土 器

遺物の出土状況は、表土中及びローム層直上面まではほぼ満遍なく出土しているが、遺物集中出土地点は、調査の結果住居址となっている。検出された住居址は、いずれも縄文時代中期中葉から後葉にかけてのものである。

#### 2. 石 器

表土上及び遺構内に見られる礫のほとんどはこの時代の人々が当地に持ちこんだものである。この中には大型の石器として石皿や蜂の巣石などが見受けられる。石器ではないが1軒の住居内からは偏平で比較的大きな礫を用いた石囲い炉が検出されている。

## 第Ⅲ章 小 括

計画事業は13000m<sup>2</sup>の内調査区域は合計で4500m<sup>2</sup>という範囲でありながら遺物の出土量は表土上から多量に出土している。それに伴い遺構確認面も比較的高い地点より確認されたことにより、後世による遺構の搅乱はほとんどないものと思われる。その内容は、平安時代の住居址と中世の貨幣、近世の石祠等である。検出された平安時代の遺構は、いずれも廃絶時に破壊したと思われカマド及び遺物の検出は見られなかった。検出された2軒の住居址ともカマドの保存状況は非常に悪く構築材料さえ確認できない状況であったが、調査時における浅い掘り込みと焼土、その位置、支脚と思われる部分の小ピット、遺構全体の堀方等により推定した。これらの住居址は、縄文時代中期の住居址と見事に一致していることから、平安時代の住居址が構築された時点ではまだ縄文時代中期の住居址の位置が確認できる状況であったと推察される。もしくは、遺構の配置状況等から縄文時代中期の大規模な集落址と思われることから平安時代の住居址の掘り込みが比較的浅く、縄文時代の住居址の床面とほぼ同一レベルであるこ

とから複数の遺構の集合体の中での確認不足であることも否めない。なぜならば、遺構覆土中より出土すると思われる遺物の存在がまったく無いからである。

出土している土器によれば縄文時代中期中葉から後葉そして後期中葉までが確認されている。しかし、検出されている遺構は縄文時代中期中葉から後葉までのごくわずかな期間の住居が点々として確認されているに過ぎない。

道路という線上的調査であることから遺跡内(台地上を)東西に横断する形での調査であることから一概に結果はいえないが、遺構の配置等から環状集落の極一部を露にした状況であろう。この環状集落は直径40ないし60mの広場を持ち、その広場には複雑に切り合った土坑が無数にあり、所々には単独で存在する埋甕が検出されている。

これらの土坑中から完形となるような土器の出土は見られないものの、複雑に絡み合った状況と、その外郭部にひしめき合うように検出された住居址群からは、当時この地に住みついた縄文時代の人々の息吹が聞こえるようである。

そのなかで、数状の沢により分断された台地が、この路線の延長上に3本あるが、遺跡として確認されたのは蕨原のみである。あとの大坪原と新田大林においては、遺物すら確認できない状況があった。これらの台地はほぼ同一レベルであり、台地の両側は沢とういう水源も確保できうる状況でありながら、遺跡として確認できない状況は、当時の生活において住みつくことのできない場所、あるいは住みついてはいけない場所として認知されていたのではないだろうか。一見現代人には同じ状況に見えるものではあるが、当時の人々にとっては、かけがえのない場所であった可能性もある。

比較するとこれらの台地の中で東西方向に距離を持つ台地は蕨原であり、残りの台地はその半分にも満たない状況が伺ることができる。

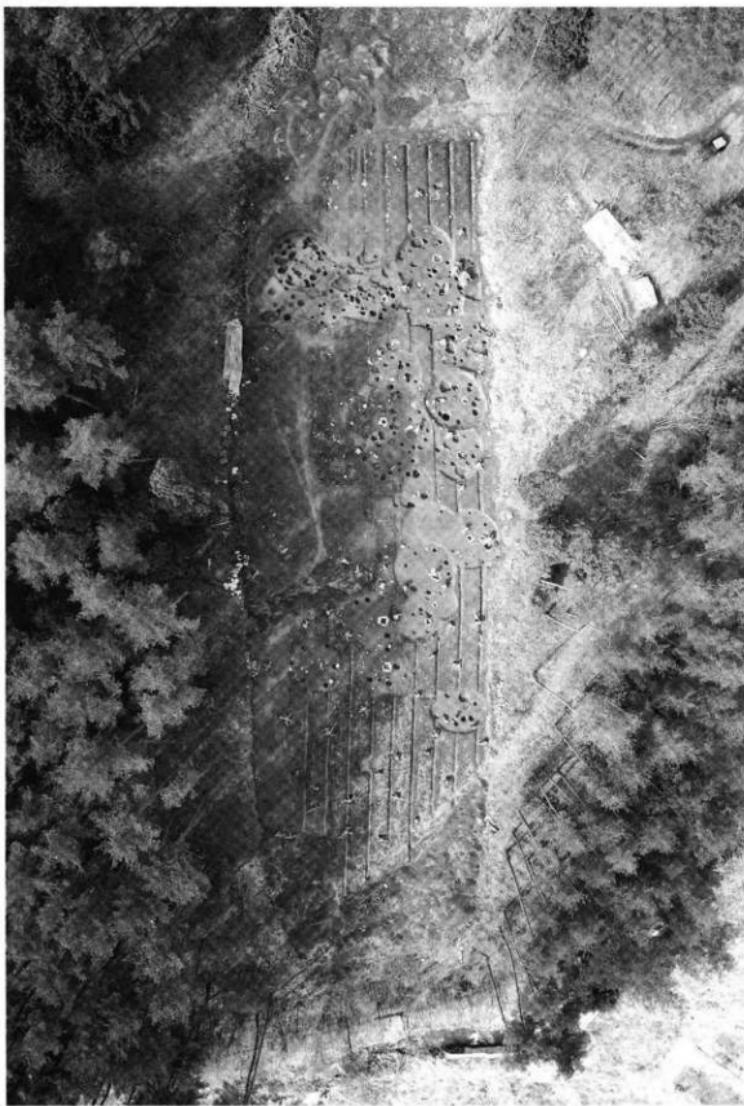
以上、東久保遺跡の調査結果について基づいて若干の考察を加え遺構、遺物の検討をしてまいりました。不十分な部分もありますが、一資料として今後の調査研究の参考となれば幸いです。

最後に、この度の発掘調査及び報告書作成に御協力いただいた皆様に末筆ながら記して御礼申し上げます。

### 【引用・参考文献】

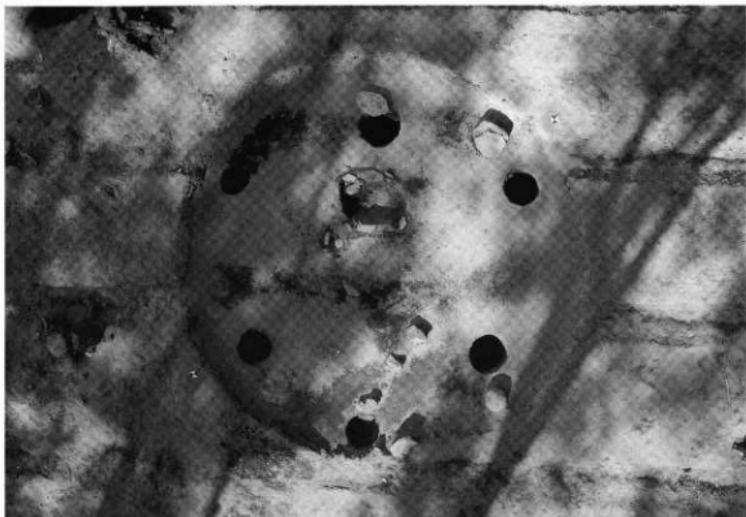
- |              |      |                                    |
|--------------|------|------------------------------------|
| 山梨県教育委員会     | 1979 | 『山梨県遺跡地名表』                         |
|              | 1986 | 『甲斐郡 I・II』                         |
| 高根町          | 1980 | 『高根町誌』                             |
| 長野県教育委員会     | 1982 | 『長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書<br>一原村 その5』 |
| 岡谷市教育委員会     | 1986 | 『東久保遺跡』第5次～第11次発掘調査報告書             |
| 芹沢長介・坪井清足 監修 | 1981 | 『縄文土器大成』講談社                        |
| 小林達雄 編       | 1988 | 『縄文土器大観』小学館                        |
| 中村龍雄 編       | 1980 | 『中部山地 縄文土器集成』                      |
| 鈴木道之助        | 1981 | 『石器の基礎知識 III 縄文』柏書房                |

図 版-1



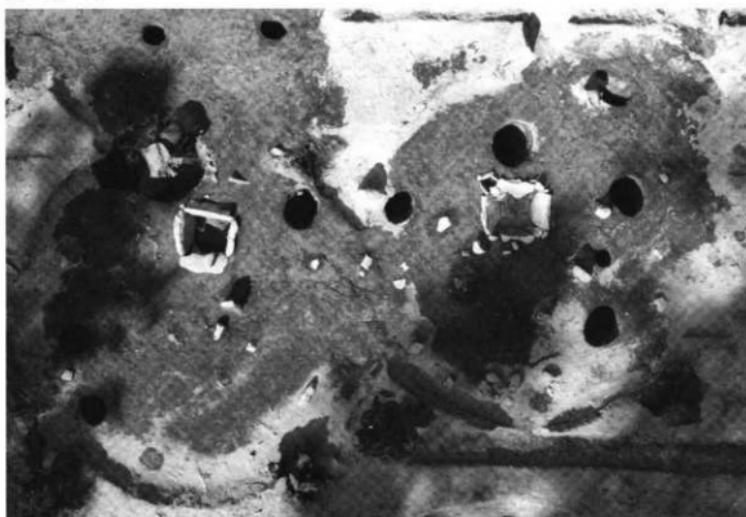
調査区全景写真(前より)

図 版-2



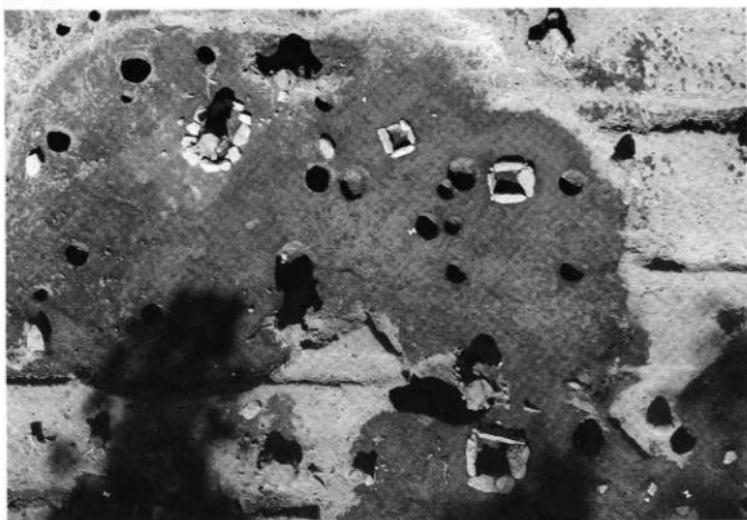
第2号住居址

図 版-3



第3、4、5、6号住居址

図 版-4



第4、7、8号住居址

図 版-5



第7、8、9、12号住居址

図 版-6



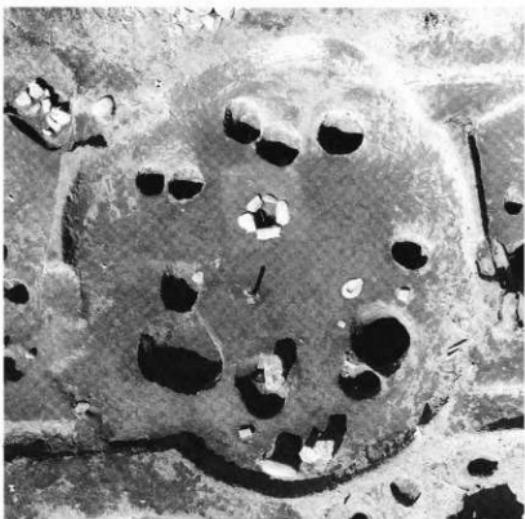
第10、18、19、20、21号住居址

図 版-7



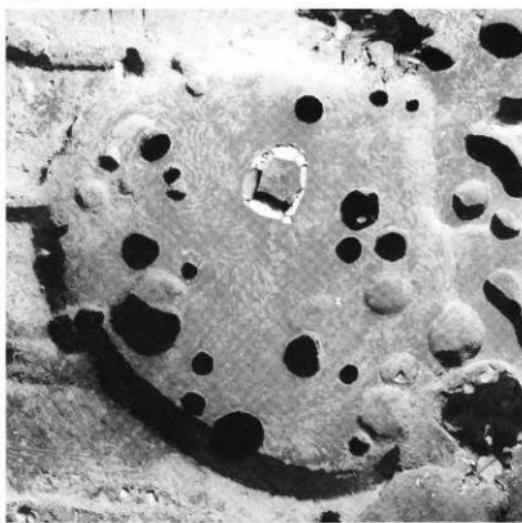
第11号住居址

図版-8



第13号住居址

図版-9



第14号住居址

図 版-10



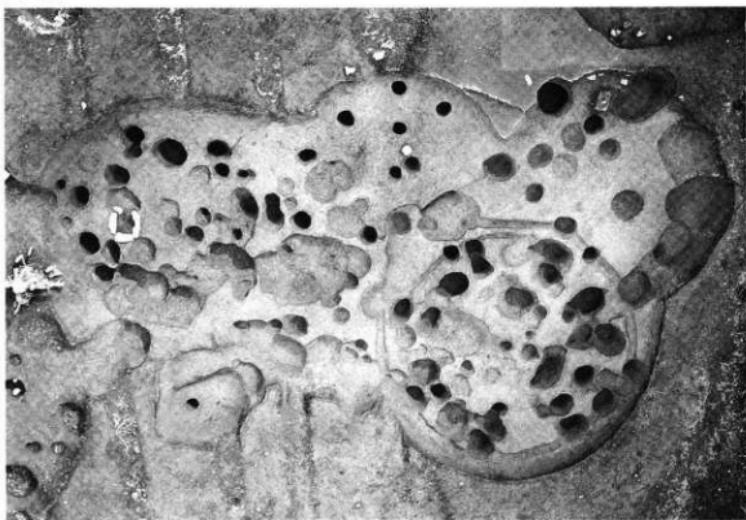
第15号住居址

図 版-11



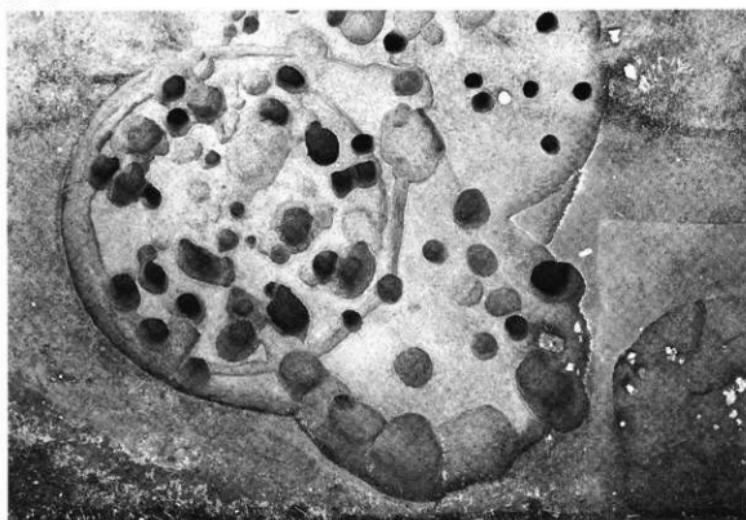
第17、24、25号住居址

図 版-12



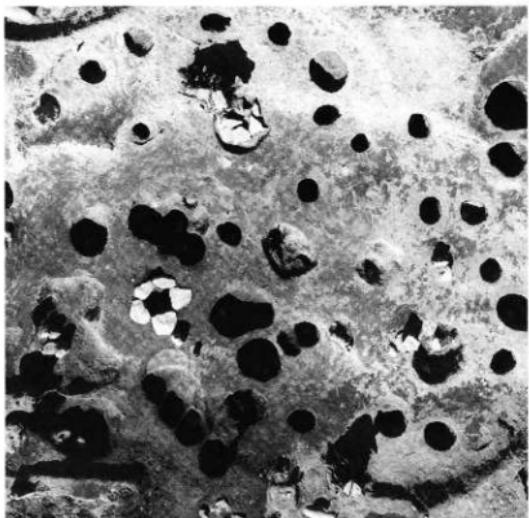
第14、15、16、27、28、29、30号住居址

図 版-13



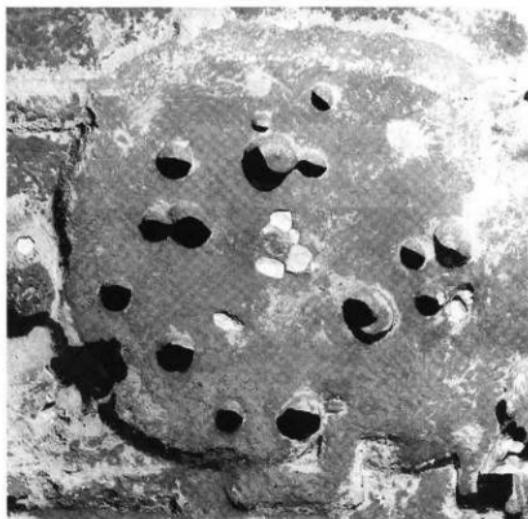
第16、27、28、29号住居址

図 版-14



第19、20、21号住居址

図 版-15



第22号住居址

図 版-16



遠景(東より)

図 版-17



遠景(西より)

図 版-18



近景(東より)

図 版-19



近景(西より)

図 版-20



近世石祠

図 版-21



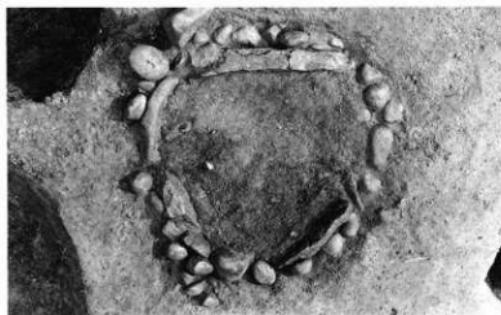
第18号住居址内石坊出土状況

図 版-22



第5号住居址炉完壊状況

図 版-23



第5号住居址炉剝山状況

図 版-24



第11号住居址出土土偶

図 版-25



第22号住居址埋壠炉劍出状況

図 版-27



第22号住居址埋壠炉劍出状況

図 版-27



第30号住居址埋壠炉劍出状況

圖 版-28



第30号住居址埋壅炉半裁状况

圖 版-29



第28号住居址埋壅炉半裁状况

圖 版-30



第29号住居址内出土土器

図 版-31



第14号住居址内出土土器

図 版-32



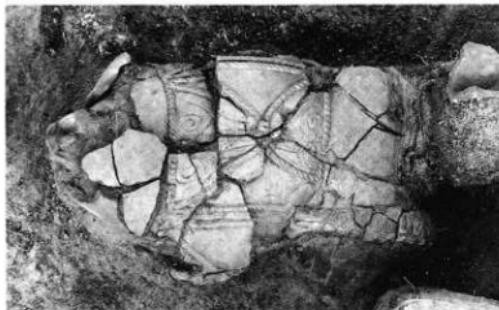
第14号住居址内出土土器

図 版-33



第14号住居址内出土土器

図 版-34



第13号住居址内出土土器

図 版-35



第13号住居址内出土土器

図 版-36



第16号住居址内出土土器

図 版-37



第25号住居址内出土土器

図 版-23



第23号住居址内出土土器

図 版-23



第23号住居址内出土土器

## 報告書概要

ふりがな	ひがしくぼいせき こういきえいのうだんちのうどうせいびじぎょうにともなうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	東久保遺跡 広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高根町埋蔵文化財
シリーズ番号	第13集
編集者	雨宮正樹
発行者	高根町教育委員会
所在地	〒408-8511 山梨県北巨摩郡高根町村山北割3261番地 TEL 0551-47-3111
印刷所	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313 TEL 0551-32-3245
発行年月日	平成12年3月30日
ふりがな	ひがしくぼいせき
所収遺跡	東久保遺跡
所在地	山梨県北巨摩郡高根町藏原字東久保830番地
位置	北緯35°48'50", 東経138°25'20"
調査期間	平成11年5月12日から平成12年3月25日まで
調査面積	4,500m <sup>2</sup>
調査原因	広域営農団地農道整備事業
主な時代	縄文時代中期
主な遺構	住居址30軒、土壙
主な遺物	縄文式土器、石器
特殊遺跡	土偶

高根町埋蔵文化財 第13集

平成12年3月27日 印刷

平成12年3月30日 発行

## 東久保遺跡

発行所 高根町教育委員会

印刷所 島北印刷株式会社

